

2020年3月

公益財団法人 船井情報科学振興財団

Funai Overseas Scholarship 第10回報告書

釣巻 瑠一郎

MIT MechE, Ph.D.課程の釣巻瑠一郎です。日々研究に集中しています。今学期はティーチングアシスタントをしており、それに関連した報告をしたいと思います。

船井奨学金の報告書を含め、多くの留学関連情報に書かれていることですが、博士課程の学生はリサーチアシスタント (RA) として研究を行う、もしくはティーチング・アシスタント (TA) として授業をサポートすることで給料をもらいながら研究することができます。今学期は研究に加えて、私の指導教員が担当する講義の一つである 2.58 Radiative transfer (ふく射輸送) という大学院生対象の講義の TA を担当しています。私の TA としての業務は主に三つあります。一つ目は講義に出席し内容を理解して、Office hours で学生をサポートできるように準備することです。TA は担当する講義の内容に関して既に精通している場合が多いです。ですので、講義に出席する理由は、学びを深めることはもちろんですが、講義で取り上げられた内容、取り上げられなかった内容を理解して Office hours での学生の質問に対して準備することだと思います。二つ目は担当する教授のサポートです。MIT では Stellar と呼ばれるオンラインシステムを用いて講義の資料を共有したり、宿題の提出等を行います。ですので、授業に関連した資料や宿題をオンラインシステムにアップロードすることが業務になります。また講義に関連したプロジェクトの発表等のスケジュールの調整もします。三つ目は学生に毎週課される宿題 (MIT では Problem set、略して Pset と呼ばれます) の解答を作成すること、そして提出された宿題の採点をすることです。解答を作成することには多くの時間が割かれます。私自身が問題を解き、かつ全学生に理解されるような解答を書く必要があるため、学生として問題を解くよりも時間が割かれます。提出された解答を採点するのはおもしろい経験だと感じています。普段は他学生の解答を見る機会はほとんどありません。ですが、採点する側になると学生の多様な解答に驚かされます。ぐうの音も出ないほどに完璧な解答、答えは合っているのにどうその解答たどり着いたかがよく説明されていない解答などが毎回あります (これは個々の学生の性格に寄るのか、毎回こういう解答が提出されます)。また、時々私が想定していなかった方法で問題が解かれていたりして、学ぶことは大変多いと感じています。

最後になりますが、充実した生活を送ることができているのは船井情報科学振興財団の支援のおかげです。船井財団には本当に御世話になっています。これからも研究を頑張ります。